

# 新建福岡・NOW

第17号 2018.02.24

発行元  
新建築家技術者集団  
福岡支部事務局  
〒815-0041  
福岡市南区野間 3-9-20-4F  
[ケイ・プラッツ内]  
Tel/Fax 092-541-8128  
HP : shinken-fukuoka.net

梅の便りが届く季節となりました。みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。  
前号(16号)は、今年9月末の発行でした。その間に開催しました新建福岡支部企画の報告等をお届けします。

9  
30

## 新建学校 2017 in 福岡 伴年晶氏 講演会「今あるモノを革（あらた）む」

場所：アミカス 視聴覚室

講師にお招きしたのは、新建大阪支部の代表幹事で、建築家の伴年晶さんです。今回は、「今あるモノを革（あらた）む」と題して、具体的な事例等を交えてお話いただきました。

思い起こせば 2016 年、吉野の研究集会分科会で、初めて伴さんのお話をお聞きする機会があり、その時から、このわくわく感を是非福岡の仲間と共有したい。その思いが、今回ようやく実現しました。

### ①設計はリズムカルな対話。建築はそこで生まれる。

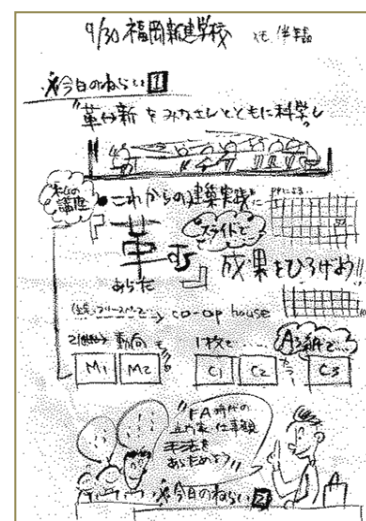
建築設計は対話。どれだけ相手の生活、感情のリズムに合ったものを出せるか。それも対話の中で、キャッチボールができるか。

### ②目的と手段の幸せな結合は、その時空における固有の存在

時代をどう読むか、場所をどう読むかが、  
個性的デザインの根源である。

### ③仕事の方向

- ・ いじらない
- ・ 少しだけいじる
- ・ ちゃんといじる
- ・ 点晴



2 時間半という限られた時間でしたが、集まったみんなが充ちた時を共有し、これからの仕事に向かう思いに嬉しい課題をいただいた、そんなひと時でした。お決まりの、場所を替えての懇親会では、近くでお話をしたいという福岡支部女子席（すみません。元女子も入っております。）の中で、科学と感性の事から、ご飯の炊き方まで、あらためて、伴さんの深さを垣間見たような気がいたしました。

あの時間を振り返って、日頃から駆け足で仕事に向かっている私自身を、「革めなければ！」と力をいただいた新建学校でした。  
(報告：矢野安希子)

今回の新建学校で、イチから企画する経験をさせてもらいました。今回講師をお願いした伴さんとは面識がなかったため、テーマを決める等のメールでのやり取りはとても緊張しました。当日は、お持ちくださった手描きのレジュメ(右上)に、開始前からすでにワクワク。懇親会では隣に座らせていただき、講演会につづいたくさんのお話をうかがうことができました。慣れないことで失礼もあったかと思いますが、伴さんの温かいお人柄に助けていただきました。本当にありがとうございました。  
(報告：月成かや)

### 追悼 延藤安弘先生

まち育ての研究と実践など多岐にわたり活動されていた延藤安弘先生が、2018 年 2 月 8 日 11 時 30 分に療養中の病院にて、膵臓癌のため享年 78 歳で永眠されました。

心からの哀悼の意を表すとともに謹んでお知らせ申し上げます。

福岡支部では事務局長が覚えているだけで、過去に 3 度ほど講演をお願いしております。昨秋に「げんげん元気な幻燈会」を開催したことが、最後の先生を囲む会となりました。あまりにも急なお別れでした。

謹んでご冥福をお祈りいたしますとともに、福岡支部のホームページで生前のご活動を紹介していますので、ご覧ください



10/24

## 2017 年度新建福岡支部 支部総会

場所：アミカス 会議室



この日の支部総会には、会員 53 名中 25 名が出席し、巻口議長のもと進行しました。総会の終盤には、幹事以外の方に一言ずつ発言してもらいました。「やっと 79 歳」とご挨拶された内田さん、中津から出席の橋本さん等、なかなかお会いできない方にも参加いただき、新旧会員の交流もできた活気のある支部総会となりました。26 歳のときに新建に入会された井上さんに報告を書いていただきました。

私は会員歴 35 年、とはいえ支部総会には 2 年ぶりに参加するような不良会員です。久々に参加した支部総会の様子を報告します。

### ●新入会員が 9 名も！

総会は博多時間で 10 分遅れのスタート。議長を含め参加メンバーの 3 割は見知らぬ人たちです。冒頭「会員 53 名で出席 24 人、委任状 13 名で総会は成立します。また新入会員は 9 名です。」との報告を聞いてびっくりです。同じ顔ぶれで、年々高齢化していたと思っていた福岡支部がなんと総勢 53 名のビッグな会に変身していたのです。この新入会員は 20 代から 70 代まで、職業も大学の名誉教授、建設業界、設計者、大工さんと建築系でも多種構多様で、さらには弁護士さんまで入会されている。17 年度の活動報告を聞いていると、ボランティア活動から勉強会そして山登りまでいろいろなイベントがなされています。来年度の活動についても、やりたいことが目白押しです。実行力の高い面々が淡々と企画を決めていく様子に福岡支部のエネルギーを感じました。

### ●会員が増えるには「わけ」がある

総会は 9 時に終了し、引き続き懇親会です。会場は飲み放題の居酒屋で、2 階座敷を貸し切り。わいわいと飲み食いしているうちに会員増の理由を肌で感じることができました。建築の話しもなくはないが、なぜかアスリート系の自慢話して盛り上がっている。やや若い人たちが登山や 100 キロウォークの話を楽しげにされている。そんな話しに刺激されて、若くはない世代の「過去の栄光」自慢に展開。学生時代に水泳大会のメダリストだった話しをすごいナァと思いながら聞いていると、中学時代の校内マラソン大会で優勝したという他愛のない自慢話。静かに控えめにしていた人からは、実は元探検部で、あちこちの洞窟を探検し、さらにはインドを 4 ヶ月も野宿同然で放浪したという若かりし頃の報告。還暦過ぎた今でも現役のバスケット選手だという人がいれば、富山大会の後、登山に目覚めたという女性会員は生き生きと今年登った山の話しをされる。

今の福岡支部はこんな元気で愉快的なメンバーたちが、無邪気に自慢話もできる集まりに成長(?) していたのです。宴の最後に新人会員の名誉教授が新建は楽しいクラブだとうれしそうに言われました。老いも若きも入会されているのは、新建がそんな楽しい「部活」に進化したためだと思われます。偉ぶらず、純真に新建活動に取り組む、そんな姿勢が今の福岡支部の強さになっているようです。

(報告：井上幸夫)



12/19

## 2017 年 新建福岡忘年会

場所：  
おやさい研究所



新会員の瀬口さんから報告をいただきました。

当日は少し早めに着いたので西鉄高宮駅の周辺を散策してから会場へ向かいました。開始 10 分前に入室受付すると既に 20 名ほどの会員の方々が着席して雑談中。少し緊張していた私に巻口さんが話し掛けて下さり、隣に着席。10 分程遅れて総会が始まり、式次第に沿って進行していきます。

2017 年の活動を振りかえり、「熊本・大分地震に学ぶ」・「IT スキルアップ講座」・「第 2 回山歩き」・「ビル改修ワークショップ」などなど新建福岡支部の活動の詳細が報告されていきます。中でも一番興味を持ったのは古川さんが中心となって活動されている「八幡市民会館・図書館の保存運動」のお話です。自宅と職場の近所に八幡市民会館があり設計した村野藤吾氏は高校の大先輩にあたり、私が最初に知った著名な設計士です。残念ながら図書館棟は市立八幡病院の移転工事で解体されてしまいましたが、市民会館だけは残して欲しいと古川さんのお話を聞いておりました。その後 2017 年の決算報告・2018 年の活動方針の説明・支部役員の選出と続き、来期の予算案・全国大会議案書の検討をもって閉会となりました。

最初は緊張していた私ですが和気藹々な雰囲気になんか慣れてしまい総会終盤には自ら発言したり意見を云えたりしている自分に驚いています。これも新建福岡支部会員皆様の明るい性格 人柄だと思います。誰かが新建って何か学生時のクラブ活動みたいだね～と言っていました。確かに！私も同感です。49 歳でこんな楽しいクラブに入会できて今後が楽しみです。

21 時に総会が無事に閉会し次は親睦会へ。会場はアミカスより徒歩 3 分の忍者屋敷 いや居酒屋で行われました。玄関の回転ドアが斬新で驚きながら貸切の二階座敷へ。私の座った席の周りは何故かアスリートの方々が・・・登山や 100 キロウォークやトレラン・フィギアスケートの話で盛り上がり次第には皆で自慢合戦になっており普段、お酒が苦手な私も良い気分になり酔っ払ってしまいました。周りを見渡しても皆笑顔でお喋りしています。羽目を外してこんなに飲んだのは何年振りだろう。多くの会員さんと知り合えて気分が高揚していたのだらうと思います。新建福岡支部 和気藹々な雰囲気と皆の人柄が良かです！今後の活動を楽しみにしつつ総会の報告とさせていただきます。

(報告：瀬口淳)

## 新会員 瀬口さんの自己紹介

新規会員の瀬口淳です。まずは簡単ですが自己紹介と入会のきっかけを書かせて頂きます。

年齢は 49 才 北九州市八幡東区在住で仕事は森硝子店北九州支店で営業職をしています。

弊社会長は元新日鉄釜石のラグビー選手でヒゲ森の愛称で呼ばれていた有名選手だったらしいですが・・・私は松尾雄治しか記憶にありませんしラグビーに興味がありません・・・(入社した頃)

趣味は登山と星空観望で週末は昼夜関係なく山をうろうろしている変わり者です。

入会のきっかけは会員の巻口さんに新建の事をお聞きして興味を持ち、ワークショップに参加したのが始まりで、決して巻口さんより可也山での登山ガイドの依頼があり登山後の BBQ 時にお酒に酔った勢いで入会した訳ではありません。元々職業柄 建築や設計に興味がありいい機会だと思い入会させて頂きました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



幹事会を早めに切り上げて、20:30 から近くの居酒屋で福岡支部の忘年会が行われました。10 月末の大盛り上がりの支部総会後の懇親会、12 月 5 日の「第 5 回仕事を語る会」で皆さん満足されて、幹事会を待っての忘年会なので、参加者はきっと少なからう・・・と胸算用。当初ご案内を差し上げても、希望を募る伝助がなかなか伸びません。

ところが、直前に数が増え 19 人もの方が出席していただきました。北九州から出席の瀬口さん、熊本からわざわざお越しの西村さん、本当にありがとうございました。幹事以外の方から一言ずついただきながら、今年を振り返りました。特に今年は新建賞の正賞に大坪さんが「特養よりあいの森」地域との関係の作り方で受賞され、また大坪さんと新建福岡支部会員に対して「福岡支部 新建ゼミ 2016」が特別賞をいただき、その報告の場でもありました。全国でも活気のある支部として、今年も締めくくることができ、暖かい思いが込み上げてきた会となりました。

(報告：渋谷あい子)

会員同士の活動を知りあい、お互いの活動を高め合う足がかりとして始められた連続企画の「仕事を語る会」も5回目を迎えました。この企画をきっかけに会員になってくださった城戸さんと新谷さんに報告をいただきました。

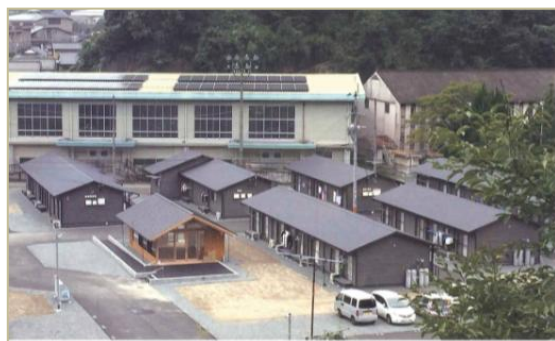
鹿瀬島さんから「仕事を語る会」へのお誘いを受けた時は、「私のような門外漢が？」と尻込みする気持ちの方が大きかったように思います。私の職業は行政書士。建築との関係といえば、建設業許可くらいです。そんな私がなぜ参加させて頂く気になったのか。まずは「建築関係の皆さんとつながりが出来れば、建設業許可の仕事が増えるかな」という皮算用。そしてもっと大きな理由が、今回のテーマのひとつだった「豪雨被災地での仮設住宅建設」でした。2012年夏の豪雨で大きな被害を出した熊本県阿蘇地方。被災1週間後から災害ボランティアとして現地入りし、その後も2年近く、月に1度は阿蘇で復旧・復興のお手伝いをしてきた私にとって、見過ごすことのできないテーマだったのです。

今回の演者は福岡中小建設業協同組合（福中協）専務理事の大里博之さんでした。青年期から今に至る30有余年の建築技術者としての歩みや、福中協への関わりなど、どれも興味深いものでしたが、やはり最も引き込まれたのは、昨夏の豪雨被災地・福岡県東峰村での仮設住宅建設にまつわるお話でした。そもそも福中協が木造住宅建設を得意とする建設業者の集まりで、やはり今回も木造仮設を手掛けられました。東峰村では建設前に入居者が決まっていたため、各家族の事情に合わせた間取り作りやバリアフリー化を行えたことが今回の大きな特徴だったそうです。ご自分が入居される予定の仮設を見に来られたお年寄りが、階段を上る大変さを訴えられたため、急きょスロープに作り替えた、というお話もありました。

最も印象的だったのは、外壁の塗装についてのお話しでした。当初は経費を抑えるため、外壁の木材は無塗装の予定でした（内壁はクロス貼りに杉材の腰壁）。そのむき出しの板材の色が、被災者の方にとっては濁流とともに我が家を襲ってきた、皮のはがれた木々を連想させるという理由で、あえて塗装を行うことが決まったのだとか。

おそらく行政の協力も後押ししていたのですが、この仮設住宅がわずか1か月で竣工したということも驚きでした。日に日に出来上がっていく住宅を目の当たりにみて、被災者の方たちはどれほど勇気づけられたことでしょう。ただ風雨をしのげればいい、というイメージだった仮設住宅ですが、少しでも被災者の方の気持ちに寄り添いたい、そう願う技術者、職人さん、そして自治体の担当者がいたことに思いをはせ、ほっこりとさせて頂いたひと時でした。

これをご縁に、私も新建の一員に加えて頂くことになりました。門外漢の無知はご容赦頂き、住人にとって最も望ましい住まいづくり、まちづくりとは何かを学ばせて頂ければ幸いです。（報告：城戸万之助）



←東峰村の  
仮設住宅



大里さんは福中協の仕事を通じて新建に入会され、その後も新建会員を通じて沢山の仕事をされており、新建とは深い繋がりががあります。福中協は1979年に民家防音工事の受け皿として設立され、その後、官公需適格組合の認定、高度化資金の活用、受注物件の共同施工、「ふくおか型」木造住宅の受注などと組合方式の利点を挙げられ、現在は住まい手・組合員の施工・福中協の設計による顔の見える住まいづくりに重点を置かれています。太陽熱で床暖房、給湯、換気ができるOMソーラーの活用、近くの山の木（耳納杉）を循環させ、住まい手主体の豊かな地域木造住宅を追求されています。2015年に福岡県木造・木質化建築賞「奨励賞」を受賞しています。最近では昨年の九州北部豪雨の被災者のために福岡県の災害復興支援に福中協として協力し、東峰村の旧宝珠山小学校校庭に4棟の応急仮設住宅と集会所を1ヶ月の工期で完成させています。その特徴は県産木材の使用、寒冷地なので断熱性能強化、高齢者対応のバリアフリー仕様というこれまでの応急仮設住宅の性能をレベルアップしたものでした。これらの実例を映像で紹介していただきました。

福中協の事務所は陽だまりホールとして、木造のおしゃれな建物で、OMソーラーや自然素材のやさしい家づくりを体感できる造りとなっており、その中で「バンビの木箱」がカフェ、ランチ、雑貨販売、図書コーナー、ワークショップなどを運営し、地域に密着した、ほっと癒される心地よい空間を提供しています。報告の後、ホールで懇親会を開いていただき、参加者との和やかな交流ができ、行政書士の城戸万之助さんが新建に入会されました。とても有意義な報告会でした。（報告：新谷肇一）

11  
24~26

## 第31回全国大会 in 大阪 に参加して

福岡支部からの参加：片井、鹿瀬島、巻口、大坪

この度初めての全国大会に参加してきました。感想は一言でいうと「参加してみても良かった！！」につきます。前夜祭の『なにお探検クルーズ』。乗る前に通っていた屋根オープン船を見て「寒そう～」と怯えましたが、実際は暖房完備の船で大阪市内を水面から見る旅を満喫できました。その夜はディープスポットでの宴会+2次会(日本酒を呑み比べ)+ユースホテルでの3次会(建まち編集員の方々と大会前から楽しく)。

翌朝は見学会で、私は歴史を学ぶべく四天王寺→七坂→玉造→京橋→大阪城を歩きました。時間的に計画通りには厳しく七坂や玉造は飛ばした為、楽しみにしていた真田丸跡や大阪城までの抜け穴を見る事は敵いませんでしたが、分厚い案内資料のお陰で歩いた気分になることができました。今回飛ばしたところは別の機会に歩いてみようと思います。

午後からはいよいよ全体会と分科会。その後講演会(長屋復活ストーリー)と落語(こちらも長屋絡み)を聞き、そのまま会場での懇親会とユースホテルでの2次会でした。翌日は別の用事で早朝に福岡に戻った為、私個人は最終日に協議するメイン会議以外を堪能した形(美味しい所だけ味わった??)ですが、建まちに名前を連ねる方々と直接お会いし人柄を知ることができた事。福岡支部の特別賞(新建ゼミでの活性化)を受ける事ができた事。他支部も福岡と同じく老若男女の元気が良い新建らしい姿を確認できた事が印象に残っています。大会報告でなく、懇親会報告となってしまったことを最後にお詫びします。（報告：巻口義人）



## 2日目の懇親会では新建賞の授与式 福岡支部の活動が「特別賞」受賞

24日は前夜祭。「落語家と行くなにお探検クルーズ」で道頓堀川をはじめ市内をめぐる水上から大阪の街を見物。食いだおれの街を散策した後、夕食会で盛り上がりました。

25日は朝から市内4コースに分かれて見学会。午後よりいよいよ大会スタートです。大坪は宮城支部小椋さんとともに議長に任せられ、ソツナク、ツツガナク議事進行に努めました。

大会一日目は先ず全体会で議案の説明、その後3つのグループに分かれて分散会。二日目は朝から分散会、後に全体会にて質疑応答、討議。昼食をはさんで、議案修正、採決、の流れです。（議事の内容については建まち誌1月・2月号をご覧ください）

この間、魅力的なアトラクションも催されました。ひとつは大阪市立大准教授、小池志保子氏による「生きている長屋」の講演。市内に今も数多く残る長屋のリノベーションの話は大変興味深いものでした。もう一つは桂福丸師匠の落語。これも面白かった。

二日目夜の懇親会では新建賞が披露され、福岡支部の活動に特別賞、私の仕事に正賞を戴きました。オメデトウございます！巻口さんと私は初めての大会参加でしたが、思い出に残る貴重な3日間でした。

（報告：大坪克也）



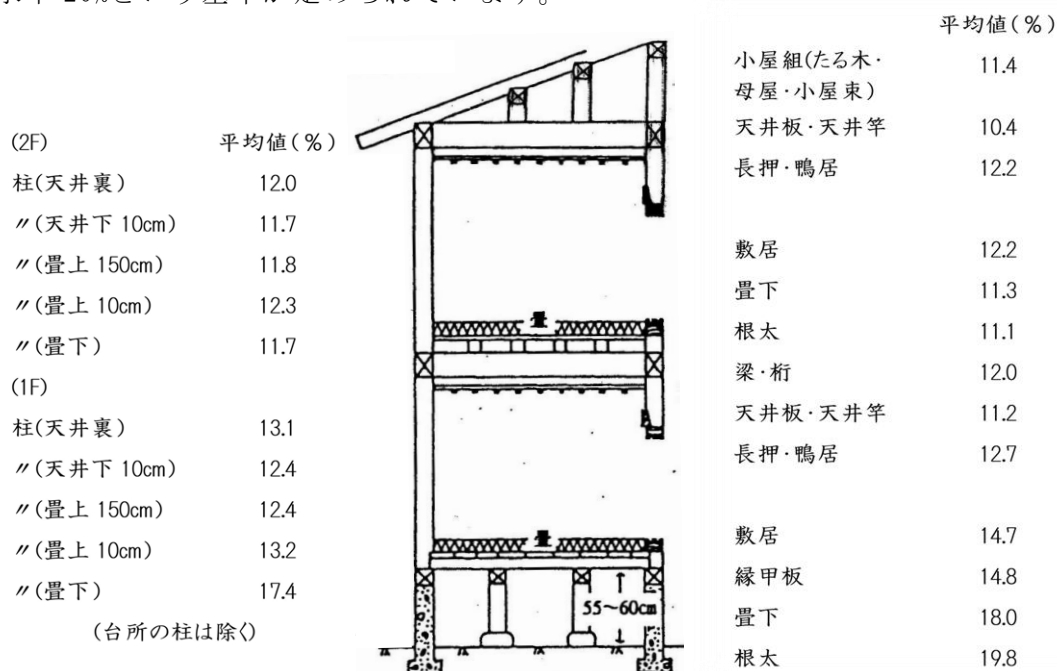
昨年5月に出版した「在来軸組工法住宅の設計手法」より、皆さんの実務に役立つトピックスを抜粋してお届けします。第2回目は、築材としての木材の含水率についてです。

## 木造住宅の含水率は、20%以下



杉・桧材の立木状態の含水率は、約150%以上とされています。建築材として使用するには人工乾燥や天然乾燥を行い、狂いや隙間が生じにくい含水率（木造住宅では20%以下が目安）まで下げる必要があります。

下図は建設後の木造住宅の各部材含水率の計測したデータです。同じ建物でも10%~20%の開きがあることが分かります。このようなデータ等を総合的に勘案し、含水率20%という基準が定められています。



**連続講座の開催決定！** 題して、「設計・現場で頑張る建築士のための木造講習会」  
木造軸組工法について、構造設計法から応用まで4回(5月・7月に実施)にわたり解説します。  
詳しくは、福岡支部HPをご覧ください。

(株式会社川崎構造設計 川崎薫)

## 福岡支部 今後の企画予定

■4月15日(日)

第3回山歩き～今回の山は平尾台～

■5月9日(水)

木造講習会 第1回

■5月30日(水)

木造講習会 第2回

■7月

木造講習会 第3回・第4回

※詳細は福岡支部HPで随時掲載予定  
[www.shinken-fukuoka.net](http://www.shinken-fukuoka.net)

のんびり山歩きを楽しみたい方、  
ご参加お待ちしております



**平尾台** 標高はこれまでで最も高い712mとなりますが、登り始めの標高が400m以上あるので、標高差が低くてなだらかで、初心者向けです。道中の眺望や独特の景色・春の花々を楽しめそうです。

## 編集後記

今般は原稿が多々あり、6ページにおよぶ紙面となりました。各々に耳を傾けるべき内容です。新建福岡の活動がこの息苦しい時代の中であってお互いに支えあい、望みをもって世に発信できる集団でありたく。新建 Now18号は5月発行の予定です。お楽しみに(古川博)

(原稿とりまとめ：古川 レイアウト：月成))